



学校だより **ふうしゃ**

平成29年10月31日
アムステルダム日本人学校
No.18
<http://www.jsa.nl/>

進路講演会

校長 尾後貫 智

寒さが一段と厳しくなってきました。保護者の皆様におかれてはご清栄のこととご拝察いたします。先週の日曜参観には多数の保護者の皆様の来校をいただきましてありがとうございました。

さて、今週の水曜日、10月25日に毎年恒例となっている、PTA会長の中学部進路講演会を実施しました。素晴らしい内容でしたので、紙面の都合上抜粋ではございますが、お伝えします。

「未来を担う皆さんに伝えたいこと」(抜粋)

PTA会長 藤尾和樹

今日は、少し皆さんより先に生きている先輩として、自分の経験等をお伝えすることによって、進学すること、大人になること、働くことへのイメージを持ってもらい、また、少しでも私の経験等が、皆さんが今後自分の将来を考える際のヒントになればと思っています。

私が中学生の時、卓球部に所属していました。個人戦ではそれほどたいした成績を出せませんでしたが、団体戦ではある程度勝ち進むことができました。自分は仲間と一緒に同じ目標を目指すということにやりがいを感じるのだと改めて気づきました。自分一人ではできないことも、仲間と共になら出来ることがたくさんあります。皆さんも「信頼し合える仲間」を持ってもらいたいと思います。卓球と同時に町のクラブチームで野球も続けていましたが、卓球に専念するため、7年間続けた野球は中学2年でやめました。皆さんのこれからの人生も選択の連続ですが、「一度選んだら反省はしても絶対に後悔はしない」でください。どの道が正解だったか、答えなんて誰にもわかりません。自分が選んだ道が最高だと思って前を見続けてください。

中学2年の時には、恩師との出会いがありました。数学の先生です。幼稚園から公文式を続けていたこともあり、数学の授業は正直簡単で退屈にしていた、そんな時の話です。先生から、問題を解けない友達を教えてこいと言われました。しかし、友達がどうして分からないか、どこで躓いているのかがなかなか理解できず、うまく教えることができませんでした。すると、先生から、君の理解はまだ50%、人を理解させることができて初めて100%になるんだよと言われました。「腑に落ちていない」、つまり深くしみこむまで理解できていないということでした。それから、何事も「腑に落ちるまで理解することを心がける」ようにしています。

高校受験に関しては、塾に行かずに受験したことが結果的に良かったと思っています。手元にある教材は教科書と過去問題集くらいでしたので、教科書には載っていない応用的な問題にどうすれば対応できるようになるか、自分で工夫して勉強することを心がけました。この経験から得た教訓は、「まずは何事も自分で考え工夫する習慣を身につける」ということです。確かに、自分で考えるより誰かに聞いた方が早いこともこれからたくさんあると思います。でも、まずは何事も自分で一旦考えてみるという習慣を持ってもらいたいと思います。そうすれば、その後、誰かから意見を得た時に、より深みのある理解へとつながると思います。

高校生活は、はっきり言って空白の3年です。高校に受かることを目標にしてしまっ、それから先の目標を明確に持っていなかったからだと思います。大学・社会人を経てようやく、「目標は持

ち続けることが大事」ということがわかったように思います。

大学では、通常の授業以外に教員免許のための授業も受け、朝から夕方まで毎日授業を受けていました。ところが、商学部では社会科の先生にしかねないという事実で大学3年の時に気付きました。一方で、商学部では簿記という大好きな学問に出会い、簿記の1級をとったのも同じ大学3年の時でした。ここが人生の大きな分岐点（最大の選択）だったと思います。悩みましたが、今自分が最も興味のある事続けようと、教育実習の申請直前で教師の道をあきらめ、税理士になることを目指しました。

税理士試験合格後は、Deloitte に就職し、税理士としてのキャリアをスタートさせました。ここで出会えた上司にも、社会人として、また、税理士としての心構えを学ぶことができました。最も心に残った言葉は、「新入だからという言い訳はお客様には通用しない。お客様にとっては同じDeloitte に依頼をしているんだから、自分が会社の代表だという意識を忘れるな。」というものです。プロとしての責任感と自主的に仕事に取り組むことの重要性を教えられました。

海外赴任は完全に想定外のことでしたが、ピンチはチャンスだと思うようにしました。どんなに困難な道のりでも、その中でこそ得られるチャンスがあります。今ここで、皆さんの前で話していることも、海外に来たからこそできた経験です。皆さんもこれから多くのピンチに遭遇すると思いますが、ピンチから得られるチャンスと経験を楽しみにして、立ち向かってほしいと思います。

さて、皆さんが大人になる頃はどんな世界になっているでしょう。IoT、Big Data 分析、人工知能 (AI) と言った新しいテクノロジーが世界を席卷し始め、これらとの共存が必要になってきます。ロボットや人工知能が、これまで人間がしてきた仕事の一部を担う時代になってきています。でもロボットや人工知能にはできない、人間でこそその仕事・人間の強みというものがあると思います。私にもその答えはわかりませんが、例えば、人の気持ちを考えることができる、人の心を惹きつけられる（求心力を持っている）というのはどうでしょうか？これは人間であるからこそその力ではないかと思います。バーテンや飲食店の店員が近い将来ロボットにとって変わられると言われていきます。ほんとにそうでしょうか？おいしい料理があったり、値段が安かったりというのももちろん重要な要素ですが、お店の店員・バーテン・料理人が人として好きだから・魅力的だからというのも、店を選ぶ際の重要な要素だと思います。このような職域でも人間が戦える部分は十分残されているのではないかと思います。また、Big Data 分析や人工知能により 2,3 のものを 10 にするための最も合理的・効率的な方法論は確立できるかもしれませんが、0 から 1 を創り出す創造力は人間にまだまだ軍配があがるのではないかと思います。他にも交渉能力や判断を下す能力もまだまだ人間の勝る領域だと思います。皆さんの将来、これらのテクノロジーと共に生きていく必要がありますが、自分自身をよく理解し、自分の強みは何かということを常に意識して、これからの世界を生きていってほしいと思います。

また、『職業』を『食業』にしないようにしてください。何で働いているの??と問われたときに「食べるため」「家族を養うため」という答えもあります。もちろんそれも大事な理由の一つであることは間違いありませんが、自分の仕事に夢や希望を持って、食べていくためだけに働くようなことにはならないでください。

最後に、これからの人生、短期の目標、中期の目標、長期の目標を持ってほしいと思いますが、決して最終ゴールは決めないでください。きている限り、目標を追い続けてほしいと思いますし、目標があれば何でも頑張れます。自分のたった一度の人生です。自分のやりたいことを存分に楽しんで頑張ってください。

いつか、皆さんが大人になった頃に、ビジネスの第一線でお会いできる日を楽しみにしています。

【記録：増井智展】